



平成29年 12月1日発行

第71号

北海道ムーブメント教育研究会会報

年の瀬、皆様お変わりはありませんか？ 今年8月に開催した夏季講習会の様子をご報告いたします。

山の日の祝日、そして、お盆目がけた三連休という大変お忙しい時期でしたが、東京から歌唱指導の専門家、眞鍋なな子先生に来て頂きました。先生のお話を「ぜひとも聞きたい！」と、40名のたくさんの方々のご参会を頂き、うれしい限りでした。ムーブメント教育研究会としても歌唱指導との関わりをはかった講習内容は、初の試みでしたが、やはり、先生の音楽指導に対するお考えと当研究会の理論が合致すると実感した講習会でした。

笑顔いっぱい、身体を動かしながらの楽しく活気あるひととき。ご参会頂いた皆様には、この場を借りて改めてお礼申し上げます。どうもありがとうございました。

## 子どもが輝く 歌の授業！ ～ 歌いたい！心と身体が動き出す ～

講師 眞鍋 なな子先生（東京都 町田市立鶴川第二小学校 主任教諭）

### 第一部 月寒東小合唱団のみなさんへの歌唱指導を通して

月寒東小合唱団の子どもたちとの出会いは、これが初めてのはずなのに、ずっと前から指導を続けてきたかのように感じられるあたたかい歌唱指導でした。先生の言葉がけが面白く、そして優しく、時に厳しく…。いつでも子どもたちが主人公になるように、声の出し方を指導していくのです。声を出す本人がどのような声で歌いたいのか、思いを引き出す指導技術は目から鱗！でした。身体全体を使って生き生きと歌い、子どもたちの声がみるみる変化していくのを感じた二時間半でした。



### 第二部 これから求められる歌唱の授業作り

- (1) 題材の課題につながる遊びや発声練習を入れる。
- (2) 題材のつながりを一年間通し、縦の系統をみて授業計画を作成する。
- (3) 子どもたち自身が思考・判断し、主体的に課題をつかむことができるようにする。
- (4) 今までの学び合いをさらに深め、発展させていく。

「授業は常に上書きしていくことが大切です！学び合いでも言語活動でも、同じパターンを繰り返すのではなく、教師自身が常に振り返り、今やっている授業を更新していくようにしましょう！」この、先生の言葉がお話の中で何度も出てきました。ご自身の熱い人生観や教育観があふれ出す、あっという間の一時間でした。

### ～アンケートから～

- ・子どもへの言葉がけや活動の展開などとても参考になった。全身で表現する指導法は音楽への理解につながっていくと思うので、どんどん実践していきたい。
- ・眞鍋先生の教育観に共感するところが多くあり、また多くを学ばせていただき、充実した時間を過ごさせていただきました。子どもの側にたった教育、音楽を通して子どもを育てていくことを今後もぶれずに教育活動に励みたいと思います。
- ・子どもたちに考えさせる、体感させて気づかせることを中心に授業づくりをしていきたいと思います。勤務校の実態が肢体不自由ということもあり、身体的に声を出せない、思うように動かせない生徒が多いのですが可能な限り取り入れていきたいと思っています。

# 山本直純と AI

研究部 高倉弘光

最近出された本で、「山本直純と小澤征爾」（柴田克彦著/朝日新書）というのがある。この2人、どちらかと言えば、小澤征爾さんの方が有名である。世界的な指揮者として君臨しているし、今も存命である。比べて山本直純さんは既に他界している。山本さんの仕事をざっと振り返ってみると、いい仕事をたくさんしているものの、それは国内のことであつたり、いわゆる大衆のための音楽を扱っていたりしている。それが、どうも山本さんの価値を過小なものにしているように思われる。しかしこの著では、山本直純さんの仕事はもっともっと評価されて然るべきであると主張する。つまり山本直純さんを「再評価」する目的で書かれているのである。

この文を読んでいる先生方のうち、山本直純さんをどれくらいの人知っているだろうか？CM ソング「大きいことはいいことだ」とか、子どもの歌「こぶたぬきつねこ」、フジテレビで今も使っている「ミュージックフェア」のテーマ曲などは山本さんの作曲によるものである。本書の中に「山本は音楽を大衆化し、小澤は大衆を音楽化した」というくだりがある。これは言い得て妙である。名言と言っても良い。事実、小澤さんと山本さんとは仲が良く、小澤さんが世界に出て行くときに山本さんがこう言ったそうだ。「お前はピラミッドのてっぺんの音楽をやれ！俺はピラミッドの底辺を広げる仕事をする」と。なかなかいい話である。私も子どもの頃、テレビで「オーケストラがやって来た」をよく観ていた。あの豪快な山本さんの指揮、語り口、たっぷりにたくわえた口髭。どれも懐かしい。実は私の音楽に対する関心は、その何分の一かを山本さんによって引き出されていたのかもしれない。

「再評価」。うん、なかなかいい言葉ではないか。世の中、どんどん新しくなっていく。最近では AI なる言葉が世の中を席卷している。何でもかんでも AI だ。クルマを買い換えたいと思っいろいろ調べてみても、今は AI の進化が著しく、1分でも遅く買う方がいろいろな技術がクルマに搭載されるらしい。だから買うのはもう少し先の方がいいようだ。しかし、である。進化の一方で、物事の再評価というのも非常に価値のあることである。そのいい例の一つが建物であろう。例えば、横浜にある赤レンガ倉庫、上野にある国際子供図書館、同じ上野にある東京藝大の奏楽堂…、数えれば切りがない。古い建物を再評価し、壊すのではなくリノベーションしてその価値をキープ、もしくは高めている例である。この再評価、私たちの仕事である「教育」に当てはめることはできるだろうか、と考えてみる。今では当たり前と考えられている指導法とか、教育観がある。あるいは「これが最新の…」というそれらもあるだろう。しかし、前ばかり見ていると何かを見失ってしまうこともあるように思われる。教育に関して何一つ具体的なことは言えないが、そんな気がするのである。これからは「再評価」という視点で物事を見ようと思う。

(たかくら・ひろみつ 筑波大学附属小学校)

## 北海道ムーブメント教育研究会

## 平成29年度・事務局体制

会長	大坂 克之 (あいの里大藤幼稚園長)
事務局 (総務)	細貝 睦 (札幌市立栄町小学校)
事務局 (研究)	上埜 光規 (札幌市立月寒東小学校)
事務局 (会計)	竹内 倫子 (札幌ゆたか幼稚園)
研究担当	高倉 弘光 (筑波大学附属小学校)
	畠山 美砂 (札幌市立伏見小学校)
	田尾 明子 (札幌市立新琴似南小学校)
	石田 晃大 (札幌市立もみじの丘小学校)
	国府 由香利 (美深高等養護学校あいべつ校)
会計担当	三上 恵 (岩見沢市立南小学校)
	千葉 伊織 (札幌市立札幌緑小学校)
	西 祐子

広報担当	織田 暁知 (ニューヨーク日本人学校)
	竹浪 恵 (札幌市立新琴似北小学校)
	中村 真紀 (函館市立湯川小学校)
	井上 志帆 (北海道札幌養護学校)
	稲船 志津子 (江差町立南ヶ丘小学校)
会計監査	西 宏 (札幌市立篠路小学校 教頭)
常任顧問	堀田 吉宏 (札幌市立伏見中学校)
	亀山 比佐 (北翔大学・大学院)

毎年、小学校へ出張授業をさせていただいている。教室に入っていくと、小学生って、どうしてこんなに目がキラキラしているのかしらと思うほど、好奇心いっぱい近づいてくる。私は、タブレットからスピーカーに繋いで曲をかける。去年、大ヒットのダンスも出来る曲をかけるとほとんどの子どもたちが踊り出す。私も一緒に踊っていると「音楽の時間、踊っていいの？」そうか、音楽の授業では踊ってはいけないルールがあるのかしら。「それでは、私の好きな曲もかけるから踊って！」子どもたちは張り切って踊っている。今度は「それでは、ピアノの音をよく聴いてね」と歩く音、走る音、友だちと出会う音。音で遊んだ後は、合奏の導入。真似っこリズムからパートに分けて、楽器を持たせて、ピアノで音をつけてみる。それから合唱、満面の笑みで歌う。こんな感じで一年に何回かの出張授業、2クラス合同、3クラス合同、それも100人以上?!なんてこともある。私にとって小学生と楽しむ良い機会。子どもたちから感想カードを頂くと「音楽、楽しかったです！」本当に嬉しい。私も「あ～楽しかった」と思って自分の学校へ帰って来る。私よりも背が大きな高校生が迎えてくれる。「せんせえ～」と気怠そうに(笑)

今年も秋には愛別町児童生徒発表会、学校祭と音楽発表の機会が目白押しである。そのおかげで忙しい作業学習の隙間をぬって堂々と「音楽」をさせてもらっている。高等支援学校の音楽の教科の意味づけができる、私にとっては幸せな季節である。生徒にとってはこの幸せな時間を幸せに過ごせるかどうかは、当たり前だが私と生徒との関係で決まってくる。小学校、中学校では合唱コンクールなどの活動も経験してきている生徒たちである。しかし、特別支援学級に在籍してきた本校の生徒たちにとって、合唱コンクールは自分が主役になることができない活動である。「合唱嫌い」を広言してやまない生徒もいる。3年間、1度も音楽の授業に出席していない生徒もいる。「お客さん」だった意識が強い活動なのである。それで「音楽」が苦手な生徒にとっての発表会の意味づけを考える。う～ん、せめて楽しくできないかな。今年は、まるで音楽的要素を無視したボンゴ担当の生徒がそのヒントをくれる。彼のボンゴは音楽的な要素や音楽的分野を超越し、さらに北半球から南半球にその所在を飛び越え、魂の叫びとしか形容できないレベルなので、周りとは調和しない。だから、彼のボンゴの出番をなるべく短くし、他の出番を考える。世界的レベルなので「リンボーダンスでもやってみる？」その一言で他の生徒も加わって、音楽授業では気怠い生徒たちも張り切ってリンボーダンスをする事になった。合唱曲はNHK音楽コンクールの高校課題曲四部合唱「言葉にすれば」、二曲目は「やってみよう！」生徒のドラム、ギター、ベース、他打楽器、そしてリンボーダンス(笑)友人に話すと「それ、良いんですか？」良いんです。「音楽」では決して日の当たらなかつた人たちが笑顔で発表しているのですから。おかげさまで、愛別町の人たちに「さすが高校生ですね」と感想をいただいた。どこの部分が高校生らしさなのか謎だ。それにしても、私の音楽は、いつも苦肉の策の連続。でも、混声四部合唱が歌えていて、バンドまでする意欲、さらに笑顔でステージに立っている。これが答えだと自負している。

## 新・事務局員の声



今年度、ムーブメントの事務局に入りました稲船志津子(いなふね しづこ)と申します。4月に異動になり、現在、道南の江差町立南が丘小学校に勤務しております。

ムーブメントとの出会いは、数年前に函館で行われた夏の講習会でした。高倉先生がピアノを弾いて、次々と曲が変わって・・・やってみて「楽しい!!」と思ったのが第一印象です。自然に笑顔が出る。次は、どんなことをするのだろうとワクワクする。感情が次々に出てくるような流れに、私もこんな音楽の授業をしたいなあと思うようになりました。それから、回を重ねて理論も勉強してきました。鑑賞の授業で子どもたちに試してみると、実に楽しそうに、子どもたちが私に「音楽聴いて動くやつ、今度いつやる？」と尋ねてくるようになりました。「音楽を感じて動く授業がこんなにも子どもを変えるんだなあ。」と実感しました。

現在は、5年生を担当し、学校で総合学習「ふるさと学習」として、10年以上取り組んでいる「江差追分」の伝承や伝統芸能「沖あげ音頭」「鮫踊り」を子どもたちとともに学習しています。特にこの中でも「沖上げ音頭」は、ニシン漁の仕事歌として伝承されてきました。仕事の様子を表した動きと共に、過酷な労働を支える歌があります。伝統芸能の奥深さと魅力を知り、音楽の民謡の授業との関連を図りながら進めているところです。

今後も音楽を聴いて感じて動くこと、そのことから音楽がより一層理解でき、今までよりももっと音楽が好きになっていくことを通して、音楽のすばらしさを子どもたちと共に感じていけたらと思っています。



## 『やってみませんか? No.17』～幼稚園の楽器遊び～

私の幼稚園は年少児で打楽器に触れ、年中児からは音楽の幅を広げ、より楽しめるように…と考え鍵盤ハーモニカを取り入れています。年中の2学期からは、少しずつ大太鼓やシンバル、サイロフォン…などにも触れて器楽合奏へと繋げていきます。

勿論、読譜の指導はしておりませんので、子ども達は音楽を聴いて、体で感じて覚えていきます。

先日普段使われていない大太鼓と小太鼓を廊下に置き、いつでも触れられるようにしてみました。すると早速子ども達がやってきました。一人で叩いてみる子、友達と合わせようとする子、他の打楽器を持ってくる子…様々です。しばらくすると、「ずっと大太鼓がなっているとうるさいね」「強すぎてダメだね」「小太鼓と一緒にちょっとうるさいな」…等と子ども達自身が強弱を考え、「丁度いいってどのくらい?」と試していました。しばらくして「先生シンバルが欲しい」「私は指揮をやりたい」という意見も出てきました。そして階名を口ずさみながらアンサンブルがはじまりました。子ども達が主体的に楽しんでいる場面でした。(私はこの時シンバルを持ってきただけ…) 私達保育者は子どもに何かを『教える』のではなく、きっかけを作ったり、方向づけをする存在であり、子どもの『やりたいをサポート』する役割ということを念頭に置き日々保育しています。

(札幌ゆたか幼稚園・竹内 倫子)



いい?見てよ～

小太鼓と合わせて



### 平成29年度 冬季講習会開催要項

1. テーマ 「子どもが幸せになる 音楽授業」 幼稚園・小学校・中学校・特別支援がつながる!
2. 日時 平成30年1月6日(土) 13:00～
3. 場所 札幌市立栄町小学校  
〒007-0836 札幌市東区北36条東13丁目3-1 TEL: 011-752-4130  
(札幌市営地下鉄・東豊線「新道東駅」より徒歩5分)

#### 4. 日程

12:30～	受付
12:55～	開会式
13:00～	第1部 講師: 高倉弘光先生(筑波大学附属小学校) ①新学習指導要領をわかりやす～く解説! ②ムーブメント基本エクササイズ
14:30～	休憩
14:45～	第2部 講師: 高倉弘光先生(筑波大学附属小学校) 鑑賞から音楽づくりへ ～スティーブライヒの『クラッピングミュージック』の鑑賞から、リズムの音楽づくりに発展させよう!
16:00～	閉会式

5. 主催者 北海道ムーブメント教育研究会  
事務局 札幌市立栄町小学校内(細貝)  
〒007-0836 札幌市東区北36条東13丁目3-1 TEL: 011-752-4130
6. 後援 札幌市教育委員会(申請中)
7. 参加費 一般3000円、会員・学生2000円
8. 申込み 札幌市立月寒東小学校・上埜 光規 まで FAX 011-851-1619  
ホームページからも、申込みができます。

<http://hokkaido-movement.jimdo.com/> 「北海道ムーブメント教育研究会」で検索